

一般質問通告書 (総括質問・分割質問)

質問者氏名	杉谷 伸夫	所属会派名	会派に所属しない議員
表題	質問事項 (質問の要旨)		
1. 気候非常事態宣言を行い、地球温暖化対策に全力を！	<p>本市は来年度、10年ぶりに環境基本計画の改訂を行うが、10年前と比べ地球環境のおかれている状況が根本的に変化した。これからの10年が人類の未来を左右すると言われる。環境基本計画策定を機に、気候非常事態宣言を行い、地球温暖化対策に市民とともに全力で取り組むことについて問う。</p> <p>(1) 全国の自治体で「気候非常事態宣言」が広がり、国会でも「気候非常事態宣言」が採択された。本市も「気候非常事態宣言」をおこない、市民に発信することが大切ではないか。</p> <p>(2) これからの10年は人類の未来を左右する10年だ。この時期に策定する環境基本計画、地球温暖化対策実行計画をどのような位置づけ、体制で取り組むか。</p> <p>(3) 地球温暖化防止にむけた本市の取り組みについて、検証可能な目標の設定が必要だが、どう考えるか。</p>		
2. 高齢者・障がい者・子育て支援の従事者全てにPCR検査を	<p>新型コロナワクチンの先行接種が始まったが、ワクチン頼みでなく継続した感染防止対策が重要だ。少なくとも身体接触が避けられない高齢者・障がい者・子育て支援の従事者に対するPCR検査を実施することが必要ではないか。</p> <p>(1) ワクチン接種にあたって強制があってはならない</p> <p>① ワクチンに対する正確な情報を基に、市民が自らの意思で接種するかどうかを決めることを、本市としても機会あるごとに市民に伝えて頂きたいがどうか。</p> <p>② こうした市民の相談に応じる態勢をつくって頂きたいがどうか。</p>		

	<p>(2) 感染防止対策が重要。その要は社会的検査の拡充だ</p> <p>①本市にある高齢者施設・障がい者施設の従事者への京都府によるPCR検査は、どのような現状か？</p> <p>②無症状者への社会的検査の重要性について、本市の考えはどうか？</p> <p>③京都府と連携して、または本市独自で、身体接触が避けられない高齢者・障がい者支援、更に子育て支援の従事者に対するPCR検査を実施するべきではないか？</p>
<p>3. 職員のこころの健康を支える取り組みの強化を求める</p>	<p>本市では、一昨年本市生活保護行政に関わる事件を契機に、職員が一人で困難を抱え込まず、組織で対応できる体制づくりに取り組んできた。また合わせて、職員のこころの健康（メンタルヘルス）を支える体制も問われてきたことから、取り組みの現状と今後について聞く。</p> <p>(1) 自己申告書制度の運用変更について</p> <p>①制度の変更の趣旨は、職員に丁寧に説明されているか。</p> <p>②自己申告書の提出状況に、どのような変化があったか。</p> <p>③上司への不満など思ったことを書けないとの声も聞いているが、職員の声はどうか。</p> <p>④人事課への直接相談は、何件あったか。</p> <p>(2) 職員のこころの健康に関する相談について</p> <p>①メンタルの原因による休職者が増えているようだが、H29年度以降の各年度の休職者は何人か。</p> <p>②産業医による面談や精神保健指定医による「こころの相談」など、年間どの程度の相談があるか？また職場におけるセクハラ、パワハラに関する相談の状況は？</p> <p>③日常の困ったときに気軽に相談できる、風通しの良い職場づくりにむけて取り組んでいることについて。</p> <p>(3) 衛生委員会の強化について</p> <p>①労働安全衛生管理規則に従えば、本市には何人の衛生管理者の配置が必要か。今後どう対応する考えか。</p> <p>②法令に適合した衛生管理者の配置、衛生委員会の開催を制度的に保障するために、本市の職員衛生管理規則の改訂を行う必要はないか。</p>